

単元5 地球と宇宙

4.太陽系と銀河系



目標時間
20分

- (1) 太陽を主体とする天体の集まり。
- (2) 太陽のように自ら光を出している天体。
- (3) 太陽などの恒星のまわりを公転している天体。
- (4) 太陽にもっとも近く、もっとも小さな惑星。
- (5) 地球のすぐ内側を回る惑星。
- (6) 地球のすぐ外側を回る惑星。
- (7) 太陽系の中ではただ一つ、表面に海があり、生命が存在する惑星。
- (8) 直径が地球の11倍。質量は300倍もある太陽系最大の惑星。
- (9) 木星に次ぐ太陽系第二の巨大ガス惑星。太陽系最小の密度をもつ。
- (10) 1781年に発見された、直径が地球の約4倍の木星型惑星。自転軸が公転面に対し約98°も傾き、衛星や環とともに横倒しの状態となっている。
- (11) 1846年に発見された、太陽系最遠の惑星。青色に見える。
- (12) 表面が岩石でできており、密度が大きい、水星、金星、地球、火星を何型惑星というか。
- (13) 水素やヘリウムが多いため、密度が小さい、木星、土星、天王星、海王星は何型惑星か。
- (14) 火星や木星の間に、岩石質の小さな天体。
- (15) 氷と細かなちりで、できている天体。
- (16) おもに(15)からでてきたりが地球の大気とぶつかって光る現象。
- (17) 金星のように地球より内側を公転している惑星
- (18) 地球より外側を公転している惑星。
- (19) 内側の惑星は明け方の(東・西)の空にみえる。
- (20) または、夕方の(東・西)の空にみえる。
- (21) 金星は自ら光を出さず、何の光を反射して輝いているか。
- (22) 恒星の明るさは何で表されるか。
- (23) 太陽系を含み、多数の恒星は、天体の大集団をつくっている。このことを何系というか。

日付	1回目
----	-----

日付	2回目
----	-----

日付	3回目
----	-----